エリオット波動 学習ガイド

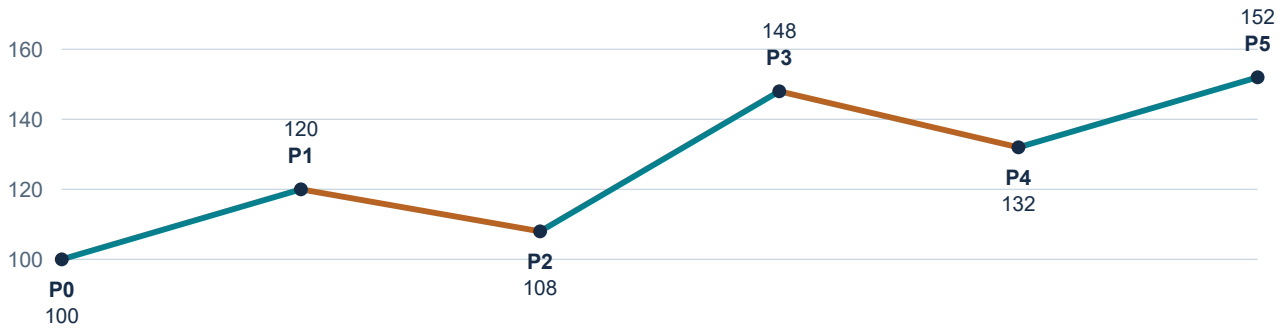
ルール・カウント・Fibonacci

候補となる波動カウントを点検するためのワークブックです。構造を確認してから計算点を選び、別の解釈も残します。

Student Wyckoff 独自の学習資料です。練習の価格とバー番号はすべて架空です。第1.0版、2026年10月19日。

読む順序

02 基礎と構造の点検
03 修正波と表記
04 繰り返し使えるカウント手順
05 Fibonacci：押し戻しと投影
06 第5波：条件付きシナリオ
07 代替カウント・時間・確かさ
08 練習・解答・参考資料



架空の学習用数値。線分は外側の脚を示し、省略した内部構造の証明ではありません。

方法の学習と記録に使います。現在の市場予測、測定済みの成功率、完成した売買エントリーシステムは提供していません。

02

基礎と構造の点検

波の次数は、周囲の構造に対する相対的な大きさを表します。同じ次数の波同士を比較します。転換点が6個あるだけでは、5波動の全内部構造は証明できません。

次の一覧は通常の上昇インパルスに適用します。下落例では価格方向を逆にします。ダイアゴナルには内部構造と境界線の別の確認が必要です。

チェックリスト

1. 第2波は第1波を完全に打ち消してはいけません。
2. 第3波は第1波の終点を超える必要があります。
3. 第3波は第1・3・5波の中で最短にはなれません。
4. 本例の厳格な通常インパルスでは、第4波は第1波の価格領域に入りません。

比較前に価格目盛りと長さの定義を決めます。終値だけでなく価格区間全体を調べます。境界への接触と明確な通過は別の観察です。資料にある特殊な市場例を、断りなく通常例に適用しないでください。

03

修正波と表記

修正波は構造の集まりであり、自動的に3本の線になるわけではありません。文字は特定次数の位置を示すだけで、完成を保証しません。

複合修正のWとYはそれぞれ修正パターン全体です。Xは修正的な連結波です。不完全なABCX表記は、Yが現れたことも完成したことも証明しません。

形態	表記と内部構造	点検内容
ジグザグ	A-B-C; 5-3-5	急な形だけでなく内部の分割を確認。
フラット	A-B-C; 3-3-5	型に応じてBがAの起点付近に戻る、または超える。
トライアングル	A-B-C-D-E; 3-3-3-3-3	上位パターン内の位置と具体的な境界を確認。
複合修正	W-X-Y、場合によりさらにX-Z	各パターンと連結波を個別に点検。

分割の数字は一段低い次数の構成を表します。ジグザグとフラットはともにA-B-Cですが内部が異なります。くさび形だけでダイアゴナルとは判断できません。

04

繰り返し使えるカウント手順

毎回同じ順序で点検します。後のバーを見る前に、点検時点で利用できた情報を固定します。

1. 銘柄、価格の出所、時間足、時間帯、取引セッション、価格調整を記録。

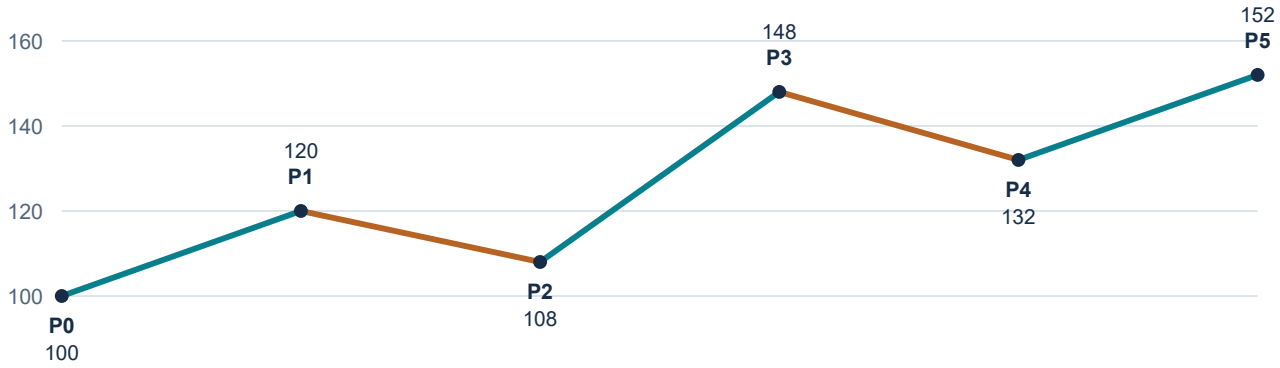
2. 正確な転換点とデータの締切を決定。1本のバーで高安の順序が分からなければ未解決のままにする。

3. パターンと次数を選び、価格条件と内部構造を確認。

4. 競合するカウントを、独自の無効化条件とともに保存。

5. 完成・進行中・未解決を分け、後の修正は新しい記録として残す。

図は線形目盛り上の架空の外形です。表示端点の条件は満たしますが、小さな分割と上位の背景は与えていません。



架空の学習用数値。線分は外側の脚を示し、省略した内部構造の証明ではありません。

点	架空の価格
P0	100
P1	120
P2	108
P3	148
P4	132
P5	152

05

Fibonacci：押し戻しと投影

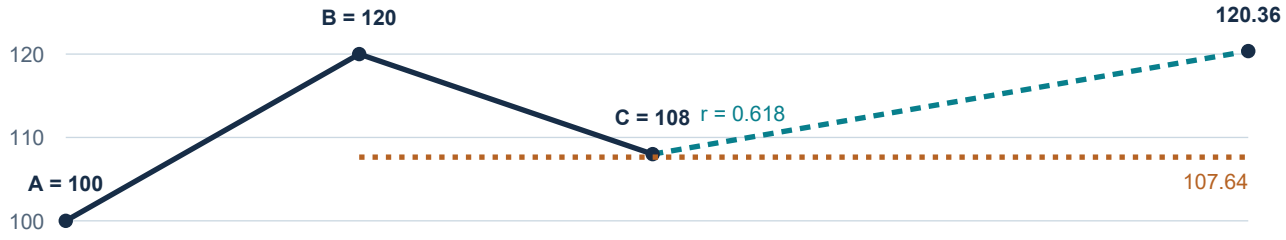
リトレースメントは終点からの戻りを測ります。投影は別の基準点から選択した倍率を加えます。両者の点の名称と式を区別してください。

架空の上昇区間A=100、B=120と比較起点C=108では、基準長は20です。表は選んだ倍率を使用します。0.500は半値との一般的な比較で、それ自体はFibonacci比率ではありません。

倍率	戻り：B-r(B-A)	投影：C+r(B-A)
0.382	112.36	115.64
0.500	110.00	118.00
0.618	107.64	120.36

下落例では正の長さを定義し、価格方向を逆にします。丸め方と目盛りを先に決めます。数値水準はカウントの妥当性や成功確率を証明しません。

A = 100 | B = 120 | C = 108



架空の基準点と計算水準です。破線の投影と点線の戻りはr=0.618を使用し、市場予測を意味しません。

06

第5波：条件付きシナリオ

この練習に限り、別の点検で第1-4波の点100,120,108,148,132が受け入れられたと仮定します。L1=20、L3=40です。第4波の候補終点からT5=132+r*20を計算します。

倍率	長さ	終点
0.618	12.36	144.36
1.000	20.00	152.00
1.618	32.36	164.36

最初の投影は148未満です。第5波のフェイリュア候補にすぎません。第3波高値に届かないことだけでは完成を証明できず、必要な内部5波の確認が残ります。

152へ向かう架空の5脚は132,140,136,148,143,152です。限定的な短縮例は132,138,135,142,139,144.36です。表示次数で長さと非重複を確認できますが、さらに小さな構造は未解決です。

3候補の第5波長はすべてL3=40未満です。等長と0.618は資料にある目安で、1.618は本書で選んだ長めの数学的比較です。必達目標ではありません。132を下回れば、この特定の第5波起点シナリオを棄却して再検討します。

07

代替カウント・時間・確かさ

主カウントは先に検討する案で、確定した未来ではありません。各代替案の根拠、点、正確な無効化観察を記録します。結果を見てから都合のよい代替案を選ばないでください。

時間はバー間隔、取引セッション、暦日で異なります。番号100から121までは21間隔ですが、両端を含めれば22位置です。134から21*0.618=12.978を13に丸めると147、21*1.618=33.978を34に丸めると168です。これらは検討位置であり、反転日の約束ではありません。

Fibonacci比率は勝率ではありません。確率の主張には、明確な事象、全対象例、固定手順、未使用テストデータ、不確実性、取引費用が必要です。本書ではその確率を測定していません。

記入用の点検記録

出所・時間足・セッション・締切

パターンと次数

正確な点と目盛り

未完了の構造点検

代替解釈

無効化条件と次の観察

08

練習・解答・参考資料

解答を見る前に挑戦

1. 100,120,108,148,132,152だけで全ての小波を証明できないのはなぜですか。

2. A=100、B=120の0.618リトレースメントはどこですか。

3. 同じ区間をC=108から1.000投影するとどこですか。

4. 第5波終点144.36だけで短縮を証明できますか。

解答

1. 外側の端点しかなく、小さな構造と上位背景が欠けています。

2. 120-0.618*20=107.64。

3. 108+1.000*20=128。

4. できません。内部5波と、指定次数での完成を点検します。

参考資料と続き

構造の簡潔な参照元を以下に示します。表、図、計算例、練習は本書独自のものです。

Motive Waves | https://www.elliottwave.com/waveopedia/motive-waves/
Impulse | https://www.elliottwave.com/waveopedia/impulse/
Zigzags | https://www.elliottwave.com/waveopedia/zigzags/
Flats | https://www.elliottwave.com/waveopedia/flats/
Triangles | https://www.elliottwave.com/waveopedia/triangles/
Combinations | https://www.elliottwave.com/waveopedia/combinations/
Equality | https://www.elliottwave.com/waveopedia/equality/
Fibonacci Relationships | https://www.elliottwave.com/waveopedia/fibonacci-relationships/
Truncation | https://www.elliottwave.com/waveopedia/truncation/
Diagonals | https://www.elliottwave.com/waveopedia/elliott-wave-pattern-diagonals/

オンラインガイドで続きを学ぶ
https://studentwyckoffelliott.app/ja/guides/elliott-wave-counting/